

NAB2011 Report

4月10日から始まり、11日～13日まで展示会が行われた「NAB Show 2011」。

今年も米ラスベガスで開催された。参加登録が9万2,000名余りと発表されたが、実質は8万5,000人あたりだろう。リーマンショックで落ち込んだ参加者は確実に戻ってきているが、その機器やシステム提案の内容は、ある種の“ショック”が走った。

そこで、本誌主催Xデー勉強会「NAB報告」からのレポートと、本誌編集長が見た展示会ブースの目移りレポートの2つを掲載する。

本誌主催「NAB報告」レポート

映像ビジネス業界のすそ野を広げるか!? 底なし「アフターダブル化」の流れ

ファイルベース、3D関連といった次世代型システムやサービスがNABショーを盛り上げてきたが、完全デジタル放送移行を目前に控えた日本を含め、放送の次世代が間近に迫っている。NAB2011では、より実践的な、かつすそ野の広いシステムが話題を集めたようだ。本誌主催「NAB報告会」より、その一部を紹介する。

(レポート：高瀬徹朗・放送アナリスト)



インパクトを与えた BlackmagicDesign社ブース

世界各地で本格的なデジタル放送時代到来を控えるなか、「小型で低価格なデジタル放送用制作機器」は今回のNABにおいて大きく目を引き、充実ぶりを見せたようだ。映像機器ジャーナリストの小寺信良氏は、こうした傾向を「ローバジェット・プロダクションの波がきた」と表現、小型・低価格化の影響がポストプロ系から個人の映像クリエイティブ産業促進にもつながるとの期待を示した。

なかでも小寺氏が注目したのが